

大学院総合科学教育部



大学院総合科学教育部には、博士前期課程1年次に36名、2年次に45名が在籍している。そのうち留学生はそれぞれ4名と6名含まれている(2019(平成31)年4月1日時点)。総合科学教育部博士前期課程には、地域科学専攻と臨床心理学専攻があり、臨床心理学専攻は臨床心理士試験受験資格と公認心理師資格を取得できる課程となっている。地域科学専攻には、地域創生分野・環境共生分野・基礎科学分野(文系・理系)があり、それぞれの主な修士論文の研究テーマをあげると、「日本の消費税の益税額の推計」「一過性の片側サイクリング運動が血管内皮機能に及ぼす影響」「景観計画と眺望景観評価に関する研究-徳島市景観計画と眉山眺望を事例に-」「明治・大正期における徴兵区変遷と衛戍地立地-第4・第10・第16師団を対象に-」「恋愛開始時における告白の言語的方策に関する研究」「地域の食文化と健康に関する研究-糖尿病をモデルとした実証的仮説形成の試み-」「グローバル社会環境に関する研究-モンゴルと日本のジェンダーに対する課題-」「A study of Tess of the d'Urbervilles by Thomas Hardy-On the Meaning of Tess's life, her family line, Hardy's literature, and his perspective for Christianity-」「『伊勢物語』の享受史に潜む政権批判」など、経済学・健康科学・都市計画学・歴史学・社会言語学・社会学・文学にわたる幅広い研究が行われている。就職先も一般企業その他、医療福祉施設への心理専門職としての就職も多い。大学院生が執筆し、公開された論文数は、2018(平成30)年では264件、受賞が2件あり、2010(平成22)年から2019(令和元)年までの総件数は、論文数が1,052件、受賞件数が33件あり、研究水準の高さを物語っている。